

団体運営費補助金調査票（表）

補助金名	認知症家族会補助金
------	-----------

担当課	福祉部 介護保険課	実施主体	成田市認知症家族の会
科目・事業コード	会計 款 項 目 事業 介護 03 01 02 20 - 11	R06 予算額	50 千円
新規・継続の別	継続	R05 予算額	50 千円
補助・単独の別	国補	R04 決算額	0 千円
補助の種類	団体運営費	R03 決算額	5 千円
交付開始年度	平成 22 年度	終了予定年度	令和 8 年度

事業の目的・概要	認知症高齢者の介護に関する勉強会、相談会、介護者同士の交流会等を運営する団体の活動を支援することにより、認知症高齢者の家族の身体的、精神的及び経済的な負担の軽減を図るとともに、認知症に関する理解の促進及び認知症の啓発を目的とする。	補助対象事業	①交流事業 ・認知症介護者等の集い ・勉強会、後援会、施設見学等 ②広報・啓発事業 ・「オアシスだより」の発行 ・健康福祉まつりでの啓発活動 ・なりたオレンジプロジェクトの参加 ・ボランティア活動（認知症カフェ）																					
根拠法令等	・成田市補助金等交付規則 ・成田市認知症家族会補助金交付要綱	補助基準等																						
留意事項		補助	補助基本額50千円 (令和4年度は、コロナ禍による事業縮小のため自主財源のみで活動。)																					
決算内訳	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th colspan="3">令和 4 年度決算額 (単位：千円)</th> </tr> <tr> <th>収入額</th> <th>支出額</th> <th>翌年度繰越金</th> </tr> <tr> <td>15</td> <td>10</td> <td>5</td> </tr> <tr> <th>収入額の内 自主財源</th> <th>市補助金額</th> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <th>自主財源比率</th> <th>繰越金/補助金</th> <td></td> </tr> <tr> <td>100.0%</td> <td>0.0%</td> <td></td> </tr> </table>	令和 4 年度決算額 (単位：千円)			収入額	支出額	翌年度繰越金	15	10	5	収入額の内 自主財源	市補助金額		15	0		自主財源比率	繰越金/補助金		100.0%	0.0%		率 額	
令和 4 年度決算額 (単位：千円)																								
収入額	支出額	翌年度繰越金																						
15	10	5																						
収入額の内 自主財源	市補助金額																							
15	0																							
自主財源比率	繰越金/補助金																							
100.0%	0.0%																							

団体運営費補助金調査票（裏）

評価項目	内 容	評 価	評 価 理 由
公益性	基本構想、実施計画、個別計画など市の施策の方向性と合致しているか	はい	認知症の理解促進や普及啓発活動の実施により、介護保険事業計画等市の施策の方向性と一致している。
	市民の利益に寄与することができるか（「はい」の場合、選択式）	はい	ア. 地域での住民自治や社会福祉に著しい貢献が期待できる活動に該当
	市民協働を推進する目的があるか	はい	市や地域包括支援センター等と連携し、認知症の人やその家族、地域の方など、誰もが参加できる交流の場の開催や、認知症カフェの支援を行っている。
	事業を実施できる団体は他にないか	はい	家族会は市内に1団体しかなく、他に実施できる団体はない。
必要性	事業の目的・視点・内容が、社会経済情勢や市民ニーズに適合しているか	はい	超高齢社会により認知症は今や誰もが関わる課題として、認知症の理解促進、普及啓発への活動は市民ニーズに適合する。
	市が関与する必要性があるか	はい	市として認知症の方、その家族を支えるために活動を支える必要がある。
	事業を実施しなかった場合に、大きなマイナスの影響があると認められるか	はい	市民への啓発機会の減少や、認知症を抱えている家族が気軽に話し合える相談場所が無くなる。
	類似の事業はないか	はい	特になし。
適格性 (妥当性)	団体等の活動内容が、補助目的と合致しているか	はい	認知症に関する啓発活動や、市民の交流、情報提供の場であり、補助目的と合致する。
	団体を支援するに当たり、補助金の交付が適切な手段であるか	はい	地域の介護者支援や認知症の啓発活動を目的としており、収益性が見込まれないため、これを補完する必要がある。
	団体の会計処理や補助金の使途は適正であるか	はい	事業計画に沿った支出を行っている。監査において、通帳や出納帳等により使途を確認している。
	団体の決算における繰越金（剰余金）が補助金の額を超えていないか	はい	令和4年度 補助額0千円 繰越額5千円
	対象経費は、規則・要綱等により規定されているか	はい	成田市認知症家族会補助金交付要綱により規定されている。
有効性 (費用対効果)	補助金を交付することによる効果を明確に示すことができる指標等はあるか	はい	オアシスの会の相談件数 (R2：26件、R3：22件、R4：24件)
	補助金額に見合う効果があると認められるか	はい	市の認知症施策の推進の一つとして、大きな役割を果たしている。
	事業を継続するうえで、補助は必要不可欠であるか	はい	自主財源が乏しく、継続した活動を行うため補助が必要である。
	補助期間（終期）を設定しているか	はい	令和8年度を終期としている。
最終評価	維持継続		
評価者 所見	超高齢社会により今後も認知症高齢者の増加が推計されており、それに伴い介護者家族の増加や多様な介護が必要となる。成田市認知症家族会による啓発活動の実施や、介護者が集いに参加し、介護経験者や専門職の方からアドバイスを受けることで、精神的、身体的不安が軽減されるだけでなく、介護者同士の繋がりや情報交換などにより、介護の知恵や認知症本人の生きがいや希望等も見出すことができる。そのため本事業は今後も継続して活動していくことが必要である。		